

抗 HIV 薬予防服用同意書

(被曝露者記入用)

エイズ拠点病院

協力病院 病院長 殿

以下のチェックリストに従い HIV 汚染血液等曝露後の抗 HIV 薬予防服用説明書をよく読み、服用の意義、注意点等について確認してください。(□=チェック欄)

服用の意義について

感染直後に抗 HIV 薬を服用することで、100%感染を防げるわけではありませんが、感染のリスクを約 80% 低下できるといわれています。複数の抗 HIV 薬を服用すればさらに効果的であると考えられます。

服用にあたっての注意点について

感染予防の効果をあげるためには、初回 1 回目の服用は、事故後できるだけ早くできれば 1~2 時間以内に予防薬を服用するのが望ましく 24~36 時間以後では効果が減弱する可能性があります。予防服用は、曝露事故等の受傷後 4 週間の継続服用が必要です。

妊娠の可能性のある場合について

抗 HIV 薬の服用については、特に妊娠初期（最後に月経のあった日から 14 週間）の胎児に対する安全性は確立されておりません。

予防服用される抗 HIV 薬の注意点及び副作用について

●TDF/FTC：ツルバダ配合錠

- ・ B 型慢性肝炎を合併している患者では、投与中止により、B 型慢性肝炎が再燃するおそれがある。
- ・ 腎不全・腎機能障害が発生することがある。
→特に B 型慢性肝炎、腎機能障害をもつ場合は薬剤の変更を考慮する。
- ・ その他の副作用として、悪心、下痢、疲労、頭痛、皮膚色素過剰などがある。

●RAL：アイセントレス配合錠

- ・ 肝機能障害のある患者では肝機能障害を増悪させるおそれがある。
- ・ その他の副作用として、頭痛、横紋筋融解症、筋肉痛、肝機能障害などがある。

チェックリストに従い感染予防のための服用についての説明文書を読みました。

(※全てのチェック欄に✓されているか確認してください)

予防服用の重要性を理解し、服用を希望します。

はい いいえ

年 月 日

医療機関名

氏 名